
プロローグ

sunshine

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
プロローグ

【Nコード】
N4738J

【作者名】
sunshine

【あらすじ】
漫画みたいに超能力で戦いができたらどんなに楽しいか
そう考えていた主人公はある日知人たちと別世界に飛ばされて・・・

（前書き）

みなさん、はじめまして、SUNSHINEと申します
この作品はパロロワの一種だと思ってお読みください。

俺の名前は輝氣^{かがやき} 空人^{そらと}、趣味は昼寝のごく普通の高校1年生だ。
どっかの誰かさんみたいだっけ？知ったことか。

今日もいつも通り学校があるのだが、お母さんにたたき起こされる
まで布団にくるまっとくことにした。

「ソラト、朝よ！起きなさい」

「うゝん、まだねみゝよゝ」

そう言っただけはまた眠りについた。だいたい学校というものはなん
でこんなに朝早くからあるのだろう、起きれるわけがないだろ。い
つそ学校なんてなかったらよかったのに・・・。

「・・・・・・・・・・・・・・・・」

しばらくして自然に目が覚めた。いつまでたっても起こしに来る様
子がない。どうしたんだろう。

流石に起きなきゃヤバイと思って下に行ったら誰もいない。

「お母さん？」

呼んでみたが返事もない、いったいどうしたのだろう。

とりあえず制服に着替えて学校に行くことにした。

ところが、外に出てみると俺が住んでいる町とは全く違う風景が
俺の眼に映った。

「ここは・・・どこだ？」

その場所は家こそあるのだが、さびれていて道路なんか木や草に
覆い尽くされていた。

なんだか不気味だったので家に帰り友達に電話することにした。

「ブルルルルル　ブルルルルル　ブルルルルル」

誰もいない家に電話の電子音がこだまする。

「ガチャ」

よかった、一応電話はつながるらしい。

「もしもし、桐村？なんか俺大変なことになってるんだけど」

「何があつたんだ？てゆーか学校があんだろ、大変なことっていうのは遅刻か？悪いが俺も急いでるんでな。」

「そっじゃない！とりあえず外を見てくれ」

「なっなんだよ、わかつたよ・・・」

しばらく待っているると桐村が再び電話に出て

「おい！どうなってるんだよこれはそれに家族もみんな消えちまってる、なんなんだよ、意味分かんねーよ！」

「お前の家もか、じつは俺の家もなんだよ」

「なんだ、いったい何があつた」

「まあ落ち着けて、とりあえず俺の家に来てくれ」

「ああ、今から行く」

「ガチャ」

今のやつは俺の友達きりむらの桐村りゅうた 龍太、小学校の時からきりむらの付き合いで今も仲良くやっている。

「腹が減つたなあ」

桐村を待つ間にカップ麺をたべることにした。だが、水が出ない。

「はあ？なんで水が出ねーんだよ、くそっ」

どうやら水が出ないらしい、まさかとおもって火をつけようとしたがガスもとまっている。電気だけは使えるようだ。

しばらくすると桐村が家のインターホンを押した。

「おいっ、おいっ、早く開けてくれ！」

なにかあつたんだろうか、急いで桐村を中に入れてきいてみた。

「杉島が、杉島が！」

「杉島って、斉明のチームのやつだよな」

「ああ、あいつの身体が・・・」

それっきり桐村は口を開かなくなった。

杉島すぎしま、本名杉島ゆうた 佑太。見た目も内面もムカつくやつで西明のチームの1人。喧嘩は弱いのにいつも強い奴の後ろにいる寄生虫ヤローだ。

斉明さいめい 未来みらい、同じ学校の不良グループのトップだ。イケメンという

やつで、成績は割といいほうでしかもスポーツまでかなりのレベルの秀才君だったのだが、何をトチ狂ったか「不良のほうがモテる」とか言って以来、髪を染めたりネックレスをしたりしている。まあ実際モテているのだが・・。

嫌な奴かというところでいい、いじめは許さないし誰かをこき使ったりもしてない。むしろ仲間に優しいし情にも熱いといえるだろう。

「とりあえず、腹ごしらえでもするか」

水と火がつかえないので冷蔵庫の物を適当にレンジであつたためて、2人でたべた。

「ふうー、食った食った」

時計を見るともう11時になる。

もう桐村がきて1時間ほど経つが、こいつはずっとだんまりを決め込んでいる。何か明るい話題はないかと話を振ってみることにした。

「なあ桐村、電気が使えりやガスも水もいらないかもな！」

「・・・・・・・・」

「あつてもトイレが流せないか！電気が使えても便器が使えない。なんちゃって」

「・・・・・・・・」

「おい、どうしたんだよ！」

あまりにも桐村の反応が悪いので少しいらつときた。何があつたか知らないがこうも無視されると気分がいいものではない。というか、笑ってほしかった・・

その時、学校のチャイムのような音が響いた。

キンコンカンコン

それと同時に俺と桐村の前に光の板のようなものが現れた。

「やあみんな、初めまして、私はアポカリプス。神だよ。」

その突如現れた板からアポカリプスというやつが話しかけてきた。

「みんないきなり世界がガラリと変わって動揺してるようだから説明してあげるよ。今君たちは元いた世界と違う次元の同じ世界にい

るんだ。」

何を言ってるんだコイツ？そんなマンガみたいなことがあるわけがない。

別次元？アポカリプス？神？意味がわからない、こういうことは1人でやれ。

「なぜそんなことをしたかと言うと今回みんなにはあるゲームをしてもらいたいんだ。それにはこの世界のほうが都合がいいからさ」
「何やらこのイカレた奴はそんなくだらないことのために俺たちを誘拐したようだ、ゲームだって？ふざけるな！」

「ゲームのルールは色々あるけどとりあえず・・・」

皆さんには殺し合いをしてもらいますとも言つのか？馬鹿が！
しかし次の台詞を聞いたとき、血の気が引いて行くのがわかった。

「皆には最後の一人になるまで殺し合いをしてもらうよ」

ハハハハ・・・マンガじゃあるまいし・・・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4738j/>

プロローグ

2010年10月22日09時54分発行